

大阪府立工芸高等学校 美術科

美術科で学ぶこと

美術科の入学生は大半が初心者ですが、美術に対する好奇心にあふれた個性豊かな生徒たちばかりです。入学後は自由な雰囲気のなか、互いを尊重しあいながら仲良く協力し、のびのびと制作に取り組んでいます。授業での美術についての基礎実習や4つの専攻（洋画、日本画、彫刻、ビジュアルデザイン）に加えて、授業以外にもデッサンなどの実技学習や体験型講座（油彩画、日本画、版画、染織、C G、人物モデルによる絵画制作など）を計画的に実施し、実践的な制作力を高めるための取組を行っています。

美術科生は制作体験を積み重ねることで次第に将来への志が高くなり、互いの作品に刺激を受け、競い合いながら活気に満ちた学校生活を送っています。

進路等に向けての取り組み

実技学習・体験型講座・校外学習など

実技学習・・・放課後・休業日に実践的な制作力を高めるために行います。



体験講座・・・油彩画・日本画・版画や染織・C G・人物モデルによる絵画制作など幅広い知識や技術を習得するために行います。



日本画



版画



C G

校外学習・・・動物園や植物園でのスケッチに出かけたり、絵画の素材となる紙の専門店の見学や美術館・博物館での作品鑑賞などを行うことで、制作に対する発想や意欲を高めています。

美術科の授業内容

3年間を通して素描・構成を学び作品制作の土台を築きます

美術の基礎知識や造形の基礎となる「素描」「構成」「色彩」については、3年間を通じて繰り返し学びます。そのうえで、2年次から各自の希望で絵画（洋画）、絵画（日本画）、彫刻、ビジュアルデザインの4つの専攻に分かれ、少人数の班別学習によるきめ細かな指導のもと、それぞれの専攻で必要となる専門的な知識・技術を学びます。このような学習により、しっかりとした基礎を身に付けることで、幅広く豊かな創造力や個性を伸ばします。

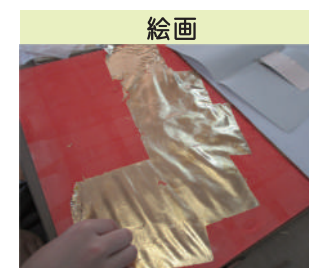
また在校生はほとんどが進学希望者で、国公立や私立の芸術系大学に進学し、将来、美術・造形・デザインに携わる優れた人材となるために日々研究、制作を深め、積極的に発表活動を行なっています。



鉛筆や木炭などを用いたデッサンを通じて、観察力や描写力、表現力を磨きます。静物を中心に基礎を学び、次第に石膏像・人物などに挑戦していきます。時には動物や風景などのモチーフも描きます。



平面や立体での作品制作を通じて、形・材質・色彩等の異なる要素を一つのまとまりある形として組み立てる手段を学びます。色彩の理論・構図法などの考え方や様々な素材に触れ、経験を積んでいきます。



素描・構成で学んだ知識・技術を絵画表現に結び付けることを学びます。具体的には水彩画や油彩画、日本画の基礎を学びます。1年次には全員が同じ内容を学び、2年次からは4つの専攻ごとに発展させて学びます。



石膏デッサン・静物デッサン・着彩表現・色彩表現から選択して学びます。生徒一人ひとりの将来に向け、素描・構成の内容を発展した実践的な力を磨きます。



総合的な探究の時間として合計6単位を設定しています。1年次は「美的探究」として美術文化への理解を深め、2、3年次の「表現探究」では専門的な知識・技術を「個の表現」にとどめず、自分に何ができるのかをアピールする手段として身に付けていきます。



1年次には風土・歴史・社会の中での「美術」や「美術を学ぶ意義」を講義を中心として学びます。2年次は技法や作家についての鑑賞や追体験により作品を研究します。3年次は日本と西洋をはじめとする諸地域の美術と比較しながら美術史を体系的に学びます。